令和６年度

研究の進め方

研究テーマ　「子どもが関わる　子どもがつくる　子どもが営む　よりよい生活」
～家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子どもをめざして～

１．研究のねらい

学習指導要領では、家庭科の目標の一つとして、「家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる」ことが求められている。本研究会でも、家庭科の学習を通して子どもが自分の生活を見つめ、進んで家族と関わることを大切にし、自分の生活をよりよくしようと実践したりさらに工夫したりする態度を育てることをめざしている。

そこで私たちは、次の３つの視点を重視し、研究テーマに迫っていきたいと考える。

１つめは、授業の中に実生活と関連を図った問題解決的な学習を取り入れることである。

子どもは、自分の家庭生活を改めて見つめ直し、問題を見出し、課題を設定する。課題を解決するための見通しを立てる際には、既習内容や生活経験と関連付け、様々な解決方法を考えられるようにする。また、家族や友達の思いを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりすることを通して、自らの取組を評価・改善し、よりよい方法を判断・決定できるようにする。すなわち、「思いや願い→課題→検討・計画→実践→評価・改善→新たな思いや願い…」という連続性のある学びを積み重ねることを通して、課題を解決できたときの喜びや達成感を味わえるようにし、自信へとつなげていく。

なお、学習指導要領においては、各題材における問題解決的な学習とは別に、２学年間で１つまたは２つの課題を設定して履修する必要がある。これは、既習の知識及び技能を活用して問題解決的な学習を行うものとして設定されている。子どもたち一人一人が日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、学習した知識及び技能を活用して課題を解決できるようにする。そうした実践を通して、学んだことが家庭生活をよりよくすることにつながることを子ども自身が実感し、家庭科の目標である実践的な態度を養うことができると考える。

２つめは、家庭科で大事にしている実践的・体験的な活動をより主体的な学習にすることである。

家庭科では、実習、観察、調査、比較実験などの実践的・体験的な活動を通して、具体的な学習を展開していく。これらの学習を積み重ねることによって、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をめざす。子どもたちの「やってみたい」「できるようになりたい」という思いや願いを尊重し、子どもたちにとって必然性のある学びを展開していく。

３つめは、家庭科の学習を通して子どもが自分の生活を見つめ、家族と関わることを大切にすることである。

家族の生活の様子を観察したりインタビューをしたりする活動「わが家ウォッチング」及び、学習したことを家庭で実践し、生活に生かす活動「家庭実践」を題材の流れの中に取り入れることである。子どもは、「わが家ウォッチング」や「家庭実践」を通して、家庭生活を構成している人・もの・仕事・時間・金銭・環境問題などへの関心をより深める。そして、家庭生活は、これらの要素が関連し合って営まれていることに気付く。さらには、自分の生活の仕方が、家族や周りの人々（年齢や立場の異なる他者=地域の人々）に影響を与えていることにも気付けるようになる。このように、家族や地域の人々と進んで関わったり、学んだことを生活の中で生かしたりする学習は、日々の生活の中で家族や地域の人々と共に自分が成長していることを自覚し、家族の一員として生活をよりよくしようとする意欲と態度を育むと考える。

２．研究内容

①授業の中に、既習内容や生活経験と関連付けた問題解決的な学習や GIGA 端末等の ICT を活用した学習活動の充実を図り、学習の基盤となる資質・能力を育む。

②よりよい家庭科学習のための、年間指導計画の改善や題材の内容や時間のまとまりを見通した授業づくり。

３．研究方法

○研究テーマに向けた授業作りを目指して、年間カリキュラムを検証しながら、実践交流をする。

○家庭科教育に関する情報を提供し、会員の力量の向上に努める。伝達の方法として、研究会のクラスルームを活用していく。

○川崎市教育委員会主催の教育課程研究会に参画する。

○常任委員授業や地区授業研究を通して、研究を推し進める。